

毎日歌壇

伊藤 一彦 選

我になれぬわたしの影が夕暮れの風にほどけて路地へと消えた 所沢市 里見 脩一

△評▽地面に映った自分の影を歌いつつ、アイデンティティを鋭く問いかける歌に仕上げています。下の句は切ないほどだ。

誕生日に初めて花束手渡して妻の涙に戯れを恥づ 前橋市 内山 征洋

△評▽軽い「戯れ」からの花束に思われぬ妻の涙。81歳という作者。「恥づ」が眼目。

医療ケアが必要な兄の父親の今にも眠りそうな文字列 兵庫 廣澤 真希

みつからの身体を疎みころまで耐へてゐるのかその枕木は 東京 池崎富実夫

押しボタン式と気づくまで月だけに真面目な顔を見られていたな 武蔵野市 北谷 雪

「囁り」に色鉛筆でふりがなを振ってみました さえずるように 戸田市 水沢わさび

問いかげの数だけ花は咲いていく筈の数だけ種を残して 加古川市 山田 麦

スタートでクラッシュしたるレースカーのようにならぬ新人 金沢市 竹内 一二

どこまでも指をひらいて掴み取るラフマニノフの鐘のなる音 札幌市 住吉和歌子

廃屋と見違ふほどに年経れど玻璃戸みがかれ人の住むらし 鹿嶋市 和田山可扇

米川千嘉子 選

「繋ぐうか」応えてくれる小さな手 戦無き地に承らえて春 京都市 根来美知代

△評▽作者の言葉に柔らかな手を差し出す幼子。丁寧な上句の表現によって場面の空気が、平和の一つの実態が伝わるよう。

我が社では父親リストの報道を遠い異星の話題と処理す 金沢市 竹内 一二

△評▽大谷翔平選手が産休を取った。その風がさまざまな所に届かんことを。

会話なきタッチパネルに嫌気さし首をひねって妻に甘える 北九州市 寶満 光保

なるほどなこうして八行ができたのかふくふく眠る文鳥はわわ 八尾市 紫乃きりん

職安の喧噪のなかイヤホンでフジコヘミングあと十四人 堺市 門哉 慧達

片付けした美家の鏡よりがどう少し綺麗に映してくれてた 奈良島 眞澄

篠弘祭の囃子に誘われて神田の街に姿を見せん 東京 東 賢三郎

徘徊の祖母は窓から外に出て十五で逝った叔父を探しぬ 西東京市 佐々木節子

詠嘆がお国訛りで放られて知り合う前のあなたに出会う さいたま市 橋本 彩子

QRコードの向こうの小さな眼 誰かが見てる私を見てる 東京 佐藤 一郎

加藤 治郎 選

なんかいいよねって君が言いかけてなんかないよねって夜のコンビニ 川崎市 新井 将

△評▽夜のコンビニのいい感じを読者は想像するだろう。共感できる。リズムミカルな歌で「よ」がアクセントになっている。

職務室 春の陽射しが忍び込みたるたつたるんキーボード打つ 狹山市 りんか

△評▽ふと春の気分になったのである。オノマトペが楽しい。指が弾むようだ。

花束を包んでいる紙ひろげゆく午後にあなたをすこし想った 所沢市 神田 望

レシートをかき出すように捨てていく私は私をすこし、見失う さいたま市 住谷 正浩

水槽の金魚みたいな恋があり天国へ行ってしまった 横浜市 友常 甘酢

曇り空、気温12℃、風はない、13時から晴れる。以上だ。 雲南市 熱田 俊月

新聞の切り抜き縁が揺れており お茶飲みしの中の吐息で 千葉市 佐藤 綾子

声はいつか言葉のツール 来世ではせめて魚に生まれ変わって 平塚市 芝澤 樹

聞いてないだけで予定はされていた実家のトイレ改修工事 大津市 佐々木敦史

春の日の入浴介助終えた身や濡れ放題に汚れ放題 須崎市 野中 泰佑

水原 紫苑 選

木漏れ日が似合う樹木を話しあう最初のぼくは葉桜という 倉敷市 中路 修平

△評▽葉桜は花の記憶をかかえて、けれどもう決してあらわすことがない。その隠された美しい顔のゆえか。

権力のなにを恐れて 花園にとめどなく鉄が鳴らされる 加古川市 石村 まい

△評▽花園で切られるのは本当に花だろうか。権力はどこにあるか。

ひろげたら折れる翼で飛んでみた 夢の中でも上手く飛べない 神戸市 入間しゅか

真っ白な蹠蹠は嘘をつくのどうつむく母が顔を失う 東京 境 千尋

図書館の本は毒の蕊だらう触れられる日をただ待ちわびて 浜松市 尾内甲太郎

月光は怒りに触れてしまふのよ木々が羽虫を纏うようにね 岡山市 松井 度

むきだしのたましいはただいたましくあなた様の花の刺繍を 宮古島市 塩見 伴

そつね、その時も地獄の駅前に着いたのは五分前って言うわ 名古屋市 よだ か

紫陽花がこんなに咲いてどこまでを世界ときみは言い続けるの 松本市 飛 和

「風」に「船」美しすぎる名のおもちゃ手ばなすことを恐れぬ種族 福津市 原田 冬

投稿規定

はがき1枚に選者を指定し、未発表の自作を2首・2句まで。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記し、宛先は〒100-8051(住所不要) 毎日新聞学芸部、短歌は「毎日歌壇」、俳句

は「毎日俳壇」、〇〇先生(希望選者名) 係へ。毎日新聞デジタルの投稿フォーム(<https://mainichi.jp/kadan-haidan/>)でも受け付けています。他媒体との二重投稿や、同一作品を複数の選者に投稿するのは厳禁で

す。投稿は趣旨を変えずに添削することがあります。入選作は毎日新聞社の電子メディアやデータベース、アプリ「俳句てふてふ」で公開し、本社が作成または許諾した出版物やメディアに掲載することがあります。